

起因物（小）別コードno.212 移動式クレーン労働災害発生状況

業種別移動式クレーン労働災害発生状況（1999-2021年）

業種	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
010101 肉製 品、乳 製品製 造業					1		1	2																4
010102 水産食 料品製 造業																			1	1				2
010103 農業保 存食料 品製造 業			1		1						1													3
010104 パン、 菓子製 造業																								
010105 酒類製 造業																	1							1
010106 飲料 （酒類 を除 く）製 造業																								
010109 その他 の食料 品製造 業			1				1						1					1	2	1				7
0101 食料品 製造業			2		2		1	3			1		1				1	1	3	2				17

030201	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業			85	80	89	79	65	51	45	40	48	55	62	53	46	42	54	53	50	54	45	1,096
030202	木造家屋建築工事業			37	40	26	35	30	34	23	17	20	23	24	21	15	26	19	18	23	9	14	454
030203	建築設備工事業			6	10	10	9	3	6	5	7	8	5	5	5	6	7	1	6	4	5	10	118
030209	その他の建築工事業			56	54	60	46	55	61	54	36	34	43	53	43	45	42	30	45	44	44	37	882
0302	建築工事業			184	184	185	169	153	152	127	100	110	126	144	122	112	117	104	122	121	112	106	2,550
030301	電気通信工事業			15	13	10	14	14	19	16	13	14	11	16	12	15	14	5	16	9	16	10	252
030302	機械器具設置工事業			22	13	12	13	9	11	7	10	3	10	3	16	9	9	6	7	13	5	5	183
030309	その他の建設業－その他			40	44	47	27	46	40	33	37	32	36	42	30	32	35	48	50	36	33	47	735
0303	その他の建設業			77	70	69	54	69	70	56	60	49	57	61	58	56	58	59	73	58	54	62	1,170

03 建設業		528		496		479	414	390	427	360	322	312	318	370	347	322	313	309	349	319	309	301	6,985
040101 鉄道・軌道業				1						1					1		1		1				5
040102 水運業		2					1		2					1			1						7
040103 航空業																							
0401 鉄道・軌道・水運・航空業		2		1			1		2	1				1	1		2		1				12
040201 ハイヤー・タクシー業										1			1	1		1	1						5
040202 バス業		1		1		1					2				1								6
040209 その他の道路旅客運送業														1	1								2
0402 道路旅客運送業		1		1		1				1	2		1	2	2	1	1						13
040301 一般貨物自動車運送業		143		142		142	120	117	112	82	95	101	74	105	102	109	101	89	99	97	84	85	1,999
040302 特定貨物自動車運送業		5		2		7	5	5	5	6	5	3	2	2	5	2	4	6	3	4	7	3	81

港湾荷 役業			12		12		10	4	8	8	3	3	8	2	2	2	8	4	6	2	5	4	2	105
050209 その他 の港湾 運送業													1											1
0502 港湾運 送業			17		17		11	6	10	9	3	4	10	3	3	3	9	4	10	3	7	5	3	137
05 貨物 取扱業			31		24		18	12	16	17	10	8	12	9	5	6	12	6	15	4	9	6	10	230
060101 農業			1		4		5	6	5	7	1	4	4	9	6	3	5	9	2	10	6	6	5	98
0601 農業			1		4		5	6	5	7	1	4	4	9	6	3	5	9	2	10	6	6	5	98
060201 木材伐 出業			11		7		7	10	8	7	3	9	4	5	7	3	3	2	8	2	3	2	3	104
060209 その他 の林業			4		5		9	3	1	3	5	5	1	2	2	5	2	2	3		1	2	2	57
0602 林業			15		12		16	13	9	10	8	14	5	7	9	8	5	4	11	2	4	4	5	161
06 農林 業			16		16		21	19	14	17	9	18	9	16	15	11	10	13	13	12	10	10	10	259
070101 畜産業												1	1					1			1			4
0701 畜産業												1	1					1			1			4
070201 漁業			3		3		5	4	3	4	7	2	3	4	2	3	5	5	2	2	3	4	2	66
070209 その他 の水産 業			1		2			1					1	1		1					1	2	1	15
0702 水産業			4		5		5	5	3	4	7	3	4	4	3	3	8	6	2	2	4	6	3	81
07 畜 産・水			4		5		5	5	3	4	7	4	5	4	3	3	8	7	2	2	5	6	3	85

産業																								
080101 各種商 品卸売 業			1		1					1					2		1						6	
080102 家具・ 建具・ じゅう 器等卸 売業									1		1												2	
080109 その他 の卸売 業			10		7		7	8	5	14	9	9	2	6	7	13	12	10	8	7	8	10	13	165
0801 卸売業			11		8		7	8	5	14	11	9	2	7	7	13	14	10	9	7	8	10	13	173
080201 各種商 品小売 業					1		1		2		1												5	
080202 自動車 小売業			1				1		4	1	1	1	2	1	1	1		1	1			1	17	
080203 家具・ 建具・ じゅう 器小売 業									1											2			3	
080204 燃料小 売業			1				1		1				1	2				1	2			1	10	
080205 新聞販 売業			1																				1	
080209 その他 の小売			20		13		9	6	7	13	11	13	5	4	11	13	11	13	4	5	5	5	4	172

1303 その他 の保健 衛生業						1														1		
13 保健 衛生業						1					1								1	3		
140101 旅館業									1									1	1	3		
1401 旅館業									1									1	1	3		
140201 一般飲 食店							1													1		
140209 その他 の飲食 店																						
1402 飲食店							1													1		
140301 ゴルフ 場				2				1	1	1	1	1		2		1				10		
140302 公園・ 遊園地																						
140309 その他 の接客 娯楽業 —その 他		1					1			1					1	1		1		6		
1403 その他 の接客 娯楽業		1		2			1	1	1	2	1	1		2		1	1	1		1	16	
14 接客 娯楽業		1		2			2	1	2	2	1	1		2		1	1	1		2	1	20
150101 ビルメ				2			1				1						1		3	1		13

1402 飲食店																				
140301 ゴルフ場																				
140302 公園・遊園地																				
140309 その他の接客娯楽業－その他																				
1403 その他の接客娯楽業																				
14 接客娯楽業																				
150101 ビルメンテナンス業																				
150102 産業廃棄物処理業	2	2						1	2	1	2	2		1	1	2		1		17
150103 その他の廃棄物処理業												1								1
150104 火葬業																				
150105 と畜業																				
150109 その他の清掃・と畜業	1																			1
1501 清掃・と畜業	3	2						1	2	1	2	3		1	1	2		1		19

15 清掃・と畜業	3	2									1	2	1	2	3		1	1	2		1			19
160101 官公署																								
1601 官公署																								
16 官公署																								
170101 派遣業								1																1
1701 派遣業								1																1
170201 警備業	1			1	1					2				1							1	1		8
170202 情報処理サービス業																								
170209 その他	1		1	2								1		1	1									7
1702 その他の事業業	2		1	3	1					2		1	1	1	1						1	1		15
17 その他の事業業	2		1	3	1			1		2		1	1	1	1						1	1		16
0 全産業	29	39	41	34	26	32	27	26	23	18	18	22	11	19	22	19	21	11	22	25	18	16	10	529

出典：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm> (MHLW, Japan)

移動式クレーンを起因物（小）とする死亡災害事例（2012-2020年）

年	月	発生時刻	死亡災害事例	業種（小）コード	事故の型コード	労働者規模

2012	3	14 ～ 15	道路工事現場において、請負業者が下り坂（勾配約10%）の途中で駐車した4 t 積み積載型トラッククレーンが、無人のまま下り坂を後退し、下方にいた被災者に激突した。	30199	6	50 ～ 99
2012	10	15 ～ 16	被災者はクレーン作業終了後、傾斜した路面に駐車しているホイールクレーンを撤収しようと、駐車用ブレーキをかけたまま、車外の車体左側側面でアウトリガーの格納操作中、当該クレーンが路面を逸走した。被災者は一旦運転席にしがみつき、その後下の小段に飛び降りたところ、当該クレーンが被災者の上に転落し下敷きとなった。	30199	1	10 ～ 29
2012	1	13 ～ 14	積載型トラッククレーンを使用し、荷台から小型ドラグ・ショベルを降ろすためにつり上げていたところ、積載型トラッククレーンが転倒して、運転を行っていた被災者は、後方の雪壁と積載型トラッククレーンとの間に挟まれた。なお、被災者は小型移動式クレーンの運転に係る資格を有していなかった。	30209	6	1～ 9
2012	11	16 ～ 17	街路灯の新設及び老朽化した街路灯の撤去を行う工事の資材置き場において、撤去された街路灯のコンクリート基礎部分を移動式クレーン（車両積載型トラッククレーン）を用いてつり上げて旋回した際、当該クレーンがバランスを崩して倒れ、当該クレーンを運転していた被災者が当該クレーンと資材置き場に置かれていたコンクリートブロックとの間に身体を挟まれて死亡した。	30309	6	10 ～ 29
2012	6	9 ～ 10	移動式クレーンを現場に向けて林道を走行させていたところ、斜面において移動式クレーンが横転しそうになったことからエンジンを切り、横転する側に被災者他1名で支えに入った。しかし、支え切れずに、逃げ遅れた被災者が移動式クレーンとともに転落し、移動式クレーンの下敷きとなって死亡した。	30209	1	1～ 9
2012	7	10 ～ 11	被災者他3名で墓石の設置作業を行っていたところ、被災者がトラッククレーン（2.63 t）を操作していた際に、吊り荷の墓石（約200 k g）が被災者の頭上に落下して死亡した。	30309	4	1～ 9
2012	9	14 ～ 15	建設現場でドラグショベルのバケットを交換するため、被災者は単独で自社の移動式クレーンで搬送し下ろそうとしていたところ、移動式クレーンが転倒して地面との間に挟まれ死亡した。	80409	6	1～ 9
2012	5	8 ～ 9	住宅増改築工事において、移動式クレーンを用いて生コンを入れたコンクリートバケットを吊り上げ、基礎打設作業を行っていたところ、移動式クレーンを設置した地盤が崩壊し移動式クレーンが倒れ、移動式クレーンのジブが基礎作業を行っていた被災者の背面に激突した。	30202	6	1～ 9
2012	1	13 ～ 14	木製型枠を積載型トラッククレーンの荷台に積んで、資材置場に向かって県道走行中、積み荷が崩れそうになったため、被災者は路肩にトラックを止め、三段ある積み荷の最上層をクレーンで吊ったところ、二段目の型枠の束（長さ4 m×幅25 c mの木製型枠が約20束、重さ約200 k g）が荷崩れし、その下敷きとなり死亡した。	30201	4	10 ～ 29
2012	9	8 ～ 9	豪雨により崩壊した林道の復旧工事現場において、足場の解体材を移動式クレーン（積載型トラッククレーン、つり上げ荷重2.9 t）を用いて積み込んだ後に発生した災害。被災者は当該クレーンを移動させようと、アウトリガーを十数センチ程度引き上げたところ、当該クレーンが後退したことにより、アウトリガーと鋼製擁壁との間にはさまれた。	30199	7	100 ～ 299
2012	5	7 ～ 8	被災者はガントリークレーンの塗装工事準備作業として、足場資材を当該クレーン上部に荷上げする準備作業を開始。当該作業は、吊上荷重100 t 移動式クレーンの最長ジブでの作業が必要なため、補助ジブを主ジブ横に取付後、オペレーターが主ジブを起伏した際に補助ジブが外れ、移動式クレーン上の補助ジブ直下付近にいた被災者2名の内1名が、補助ジブとアウトリガーにはさまれ死亡し、他1名は重傷を負った。	30209	4	30 ～ 49
2012	12	8 ～ 9	敷地内で、生ゴミ回収用の保冷車のフロント硝子を拭いていた被災者は、背後からバックしてきた同僚が運転する車両積載型トラッククレーンとの間に挟まれて死亡した。	150102	6	1～ 9

2012	4	11 ～ 12	道路舗装工事現場で一般車両等の交通誘導を行っていた際、現場作業員が積載型トラッククレーンの運転席に乗車せずに、運転席の窓の外からエンジンを掛けたところ、エンジンの始動と共に車両が動き、前方で交通誘導を行っていた被災者に激突し、車両右前輪に被災者の左足が轢かれ、入院加療先の病院で敗血症性ショックにより死亡した。	170201	17	10 ～ 29
2012	2	10 ～ 11	自社所有の焼却炉の修理のため、焼却炉蓋を移動式クレーンで吊り上げて外し、被災者の合図で地面に下ろしていたところ、下半身が蓋にはさまれている被災者が発見された。	30199	6	10 ～ 29
2012	7	12 ～ 13	駐車場建設工事現場において、被災者が65 t 吊りのクローラクレーンの主巻の玉掛け用具に掛けられていた荷の玉はずしを終えた後、次の作業に移るため、クレーン運転手が主巻フックを巻上げ、補巻フックを巻下げたところ、高さ11.8mの位置の補巻フックに掛けられていた玉掛け用具（約20kg）が落下し、その下にいた被災者の頭部に激突した（保護帽の着用有り）。なお、災害発生時に主巻・補巻共に荷を吊っていなかった。	30201	4	1～ 9
2012	6	14 ～ 15	小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.95 t、建柱車仕様）を用い、コンクリート製電柱（2.59t、長さ17.05m）を当該車両の荷台に積み込むため、電柱を1本づりで約1mつり上げ、被災者が電柱の一端を押しながら電柱を回転させていた際、前方のアウトリガーが浮き上がり、車体がつり荷側に傾いて電柱が落下し、被災者が電柱の下敷きになった。	30301	4	1～ 9
2012	5	9 ～ 10	被災者は、事業場に設置してある鉄屑裁断機の点検作業を終わらせ事務所に戻るため、他の作業者が運転する移動式クレーン（車両系建設機械のバケットをリフティングマグネットに交換したもの）の後方を移動していたところ、移動式クレーンが旋回し、移動式クレーンのカウンターウエイトと集積された鉄屑の間に挟まれた。	150102	7	1～ 9
2012	10	16 ～ 17	橋台の基礎である深礎杭（直径2.5m、深さ8m）の建設工事において、深礎杭工事の掘削で発生した土石（ズリ）を鋼製のバケットに入れて、積載型移動式クレーン（吊上げ荷重2.9t）により吊上げ、地上の坑口付近に仮置きしていた。被災者は積載型移動式クレーンを運転し、当該バケットを5tダンプトラックの荷台に移動させる際、突然当該移動式クレーンが転倒し、20m下の崖に転落した。	30105	1	10 ～ 29
2012	10	14 ～ 15	資材置場で小型移動式クレーンの荷台からコンクリート製ブロック（重さ約2 t、1.8m×0.8m×0.6mの直方体）を吊り下ろす作業を単独で行っていた被災者は、吊り荷（コンクリート製ブロック）と当該場所に集積されていた別のコンクリート製ブロックの角との間に頭部を挟まれ、脳挫傷により即死した。なお、被災者は、リモコン操作により当該小型移動式クレーンを運転していた。	40301	7	1～ 9
2013	7	14 ～ 15	被災者は、道路拡幅工事現場において、ドラグ・ショベル（機体重量5.5 t、クレーンアタッチメント付つり上げ荷重1.7 t）を用いて、敷き鉄板（重さ約1.5 t）をつり上げ、アームを旋回させたところ、ドラグ・ショベルが転倒した。旋回場所が堤防のきわであったため、ドラグショベルは約5 m下の川へ屋根側から転落し、キャビンが潰されことから脱出できず溺水した（川の深さ、約0.3 m）。	30106	1	10 ～ 29
2013	12	9 ～ 10	排水路の堰止のため、土嚢を小型移動式クレーン（吊り上げ荷重2.9 tトラッククレーン）で吊り下ろしていたところ、クレーンが傾き、操作していた被災者がトラック脇に仮置きされていた土嚢とクレーンの間に挟まれ、外傷性窒息により死亡した。尚、道幅が狭く、アウトリカーを最大に張出すことができなかった。	30107	7	1～ 9
2013	8	4 ～ 5	熱処理が終わった鋳鉄ピストンを移し替える作業において、被災労働者は、各段35個のピストンが載っている2段式パレットのうち、上段のピストンが載っているパレットに吊りチェーンを掛け吊り上げようとしたところ、移動式クレーン（吊り上げ荷重200 kgのキャスター付きジブクレーン）が転倒し、クレーンの支柱とピストンが載ったパレットの間に被災労働者が挟まれた。	11509	7	100 ～ 299
2013	7	11 ～ 12	傾斜地にある霊園内において、墓石の解体・撤去作業に使用する小型移動式クレーン（以下「カニクレーン」と記す。）を走行姿勢で作業場所まで移動していた。被災者が操作して約19度の階段を後退で登っていたところ、カニクレーンがバランスを失い階段下方に回転した際に投げ出され、回転後に横倒しになったカニクレーンの下敷きになった。	30209	7	1～ 9

2013	11	14 ～ 15	被災者は、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.63トン）により、除染した土砂等を入れたフレキシブルコンテナバッグ（1.3トン）を山道脇の空き地に降ろすため、クレーン操作を行っていたところ、積載型トラッククレーンが横転した。これにより、操作をしていた被災者は積載型トラッククレーンのキャビンと、近くに敷き並べられていた単管パイプの間に挟まれ、圧死した。尚、目撃者はいない。	30309	6	1～ 9
2013	10	11 ～ 12	被災者は、事業所構内において運転してきたトラックから降り、一旦、構内入口の守衛所に向かおうとしたところ、停車させていたトラックが動き出した。被災者は、走ってトラック前方に回り人力で停車させようとしたが、トラックはそのまま前方に停車していた別のトラックの側面に衝突し、被災者もそのトラック間に頭部を挟まれ、頭蓋骨陥没により死亡した。	150103	6	10 ～ 29
2013	8	8 ～ 9	被災者は、道路工事中に地中に埋まっていた既存のU字溝のフタ（6枚、計1.7）が見つかったため、トラック積載型クレーンにより発注者の資材置き場に運搬した。発注者より積卸場所の指定を受けた後、クレーンを旋回させたところ、車体が傾き、コンクリート製の資材との間に挟まれた。	30106	2	10 ～ 29
2013	1	9 ～ 10	被災者は、建売住宅（3棟）の新築工事現場において、当該現場の前面道路にトラッククレーンを止め、現場手前の仮置場に土台材料を荷降しする作業を行っていた。玉掛け作業及び荷降ろし作業は、被災者が一人で行っていた。材料の一部の荷降しを終え、再び荷台上で、玉掛け用の繊維ロープを材料にかけていたところ、何らかの原因で2.4m下の道路の上に墜落した。	40301	1	10 ～ 29
2013	10	9 ～ 10	台風接近に伴い、準備していた構内冠水時の対応用の排水ポンプと排水ホースを片付ける作業中、元請労働者が運転するつり上げ荷重7tのホイールクレーンを前進移動させたところ、その傍らで排水ホースの巻き取り作業をしていた被災者（下請労働者）が轢かれた。	170209	6	30 ～ 49
2013	11	14 ～ 15	建築現場において移動式クレーンを使用し、荷（押出成形セメント板）を地上から6階まで揚重中、高さ約20メートルの位置において、荷が玉掛用具から外れて落下し、地上で玉掛けを行っていた被災者の頭部に当たった。尚、荷は、長さ2.5m、幅60cmの板8枚、重量約780kgであり、玉掛用具は、ランサーと呼ばれる荷取り具具にナイロンスリングを取付たものであった。	30201	4	10 ～ 29
2013	6	11 ～ 12	クレーン機能付きドラグショベル（つり上げ荷重2.9t）を用いて、L型擁壁（重量1.8t）を3点つり（壁部2箇所・底盤部1箇所）にて仮置きを終了させ、被災者が壁部2箇所の玉外し作業を終えたところ、底盤部の玉外し作業が残っているにも関わらず、運転者は玉外し作業が完全に終了したものと思い込み、同ドラグショベルのブームを上昇させた際、L型擁壁が倒れ、L型擁壁と法面の間にいた被災者が挟まれ死亡した。	30201	6	10 ～ 29
2013	9	9 ～ 10	クローラクレーン（つり上げ荷重59.0t）を解体し、トレーラーに載せて搬送するため、被災者は上部旋回体の下に入りクローラ部を固定するボルトを外していたところ、旋回してきた上部旋回体の旋回フレームとクローラの間で頭部を挟まれた。	30209	7	30 ～ 49
2013	12	7 ～ 8	敷地内を徒歩にて移動中、地面に落ちていた物を拾おうとしてしゃがみかけたところ、バックで走行してきた11tトラッククレーンにひかれた。	150102	7	1～ 9
2013	4	9 ～ 10	河川護岸改修工事現場で、川沿いの道路に並べて敷いていた敷鉄板（1枚約800kg）を撤去するため、被災者運転のクレーン機能付き（0.9t吊）ドラグショベルで鉄板1枚を吊上げ、鉄板が川の上を通るように旋回していたところ、ドラグショベルごと川に転落し、被災者はドラグショベルの下敷きになった。	30199	1	1～ 9
2013	6	10 ～ 11	工場内の岸壁付近に設置したクローラクレーンを使用し、木製パレットに鉄板約10枚（1枚の重さ20～50kgの鉄板を積み重ねた状態）等載せた荷を、岸壁に接岸していた貨物船の船倉に降ろすため巻下しの作業を行っていた際、木製パレットに載せてあった鉄板が落下し、合図を行っていた被災者に当たった。	11209	4	30 ～ 49
		14	船の改修を行うため、船尾左舷に取り付けられた鉄製の台座（重量1.35t）の撤去作業で、移動式クレーンにて			10

2013	7	～ 15	吊り上げるため補巻フックを台座に掛け（海中への落下防止）溶断作業を行っていたが、溶断が終了したとたん、台座荷重がフックに加わりクレーンの定格荷重（約1 t）を超え、移動式クレーンは停泊していた船舶方向に転倒し、運転席が船舶に押しつぶされ被災者が運転席に挟まれ死亡した。	80409	2	～ 29
2013	2	～ 15	35トントレーラーの荷台に積んでいた鉄スクラップを、アタッチメントを換えたドラグショベル2台（1台はグラップル、1台はリフティングマグネット）を用いて地上へ下ろしていたところ、荷台上に立ち入った当該トレーラーの運転者が、このリフティングマグネットの下敷きとなった。	150102	7	10 ～ 29
2013	9	～ 16	災害復旧工事現場において、被災者は、同僚とホイールクレーンでホッパーをつり上げ生コン打設作業を行った。作業終了後アウトリガーを収納し、敷板を片付け、作業日報に作業終了の確認のサインを受領するため、パーキングブレーキをかけホイールクレーンのエンジンを停止し運転席から降りたところ、角度9度の坂道に停車していたホイールクレーンが動き出し坂を下り始め、ホイールクレーンに巻き込まれた。	30209	7	1～ 9
2013	8	～ 9	仮設道路（幅約4メートル、勾配約14%）を後進中の車両積載形トラッククレーンが法肩から脱輪して約5m下に転落した際、助手席から車外に投げ出された被災者は、車両積載形トラッククレーンの下敷きになった。	30108	1	10 ～ 29
2013	4	～ 8	被災者は、杉の玉切材（3～4m）の荷積み作業にて、玉切材をワイヤロープで固定しようと積載型の移動式クレーン荷台に積み上げた玉切材の上に乗ったところ、2.6m下の地面に墜落した。	60201	1	1～ 9
2013	6	～ 9	長さ3mから4mの杉の間伐材（玉切材）をグラップルを使用してトラッククレーンの荷台に積み込み、材が落下しないように荷締め作業を行うため、トラッククレーン荷台に積み込んだ材の上（高さ3m）に上ったところ、何らかの原因で地面に墜落した。尚、周囲で作業を行っていた労働者もいたが、被災者の墜落を目撃した者はいない。また、墜落時に墜落時保護用の保護帽は着用していた。	60201	1	1～ 9
2013	6	～ 10	被災者は、回収した産業廃棄物（電線くず）を、金属とプラスチックに分離する作業場において、プラスチックが入ったフレコンバックを積載型小型移動式クレーンで吊り上げ荷積みする作業を行っていた際、当該クレーンの吊りフックに掛けられたフレコンバックの吊り紐を外す作業を行っていたところ、当該クレーンの荷台上又はフレコンバック上から作業場のコンクリート床上に墜落した。尚、被災者は、保護帽を着用していなかった。	80109	1	1～ 9
2014	12	～ 12	事業場の資材置き場にて、積載型トラッククレーンの荷台上で足場資材を下ろす作業中、バランスを崩し、荷台に積みされた足場板上から地面に転落した。	30209	1	1～ 9
2014	12	～ 16	クレーン機能付ドラグショベルでコンクリートブロックを吊り、護岸堤防に設置する際、被災者が、一旦地上に下ろした荷の横に入り、ブロックの位置決め作業を行っていたところ、クレーン機能付ドラグショベルが不意に旋回し、被災者がつり荷のブロックと既に設置してあったブロックとの間に挟まれ、死亡した。	30107	6	30 ～ 49
2014	10	～ 17	資材置き場にて、移動式クレーンを使用し、敷鉄板を移動させようと車体側方で吊り上げ、車体後方に向け旋回させるところ、移動式クレーンが吊り荷側に転倒し、トラックの荷台とキャビンの間で移動式クレーンを操作していた被災者がキャビンの下敷きとなった。	30106	2	10 ～ 29
2014	10	～ 11	ラフタークレーンのアウトリガーの調整作業を行っていたところ、クレーンが転倒し、クレーンに積まれていた鉄板3枚が被災者の頭部に落下した。	30105	2	1～ 9
2014	10	～ 13	土嚢を積載型トラッククレーンとダンプトラックに積み込み、積載型トラッククレーンのアウトリガーを緩めたところ、クレーンが後退し、アウトリガーとダンプトラックとの間に挟まれた。尚、積載型トラッククレーンを停車していた場所は、約5度の坂道であった。	30105	7	10 ～ 29

2014	9	9	建設工事現場にて、灰分散装置を据え付けるため、移動式クレーン運転士に合図し、つり上げて移動していた際、つり上げた灰分散装置が建屋のコンクリート製梁に接触し、状況を確認しようと立ち位置を変えていたところ、玉掛けしていたクランプが外れ、灰分散装置が落下し、被災者の方に倒れかかり、コンクリート基礎の間に挟まれた。	30201	4	10 ～ 29
2014	9	10 ～ 11	定置網の錨ロープ清掃作業中、定置網へ錨ロープを取り付けようと、巻きロープをキャプスタンを使い巻き上げた際、ロープをクレーンで海面まで巻き上げたところ、巻きロープが切れ、クレーンのフックが被災者にあたった。	70201	6	50 ～ 99
2014	8	12 ～ 13	事務所へ戻る途中、村道の道路脇から約15m下の谷に転落し、移動式クレーンの下敷きとなり、死亡した。	170209	17	1～ 9
2014	7	5 ～ 6	積載形トラッククレーンで国道を走行中、対向車線のフェンスを突き破り、約6メートル下の道路に転落した。	30104	17	10 ～ 29
2014	7	16 ～ 17	トレーラーの荷台に積んだ六脚ブロックをオールテレーンクレーンで吊り上げ、仮置き場に降ろす作業中、吊り上げた六脚ブロックが既設の六脚ブロックと接触し、反動で六脚ブロックがずれ動き、合図をしていた被災者は、オールテレーンクレーンのアウトリガーと六脚ブロックの間に挟まった。	30111	7	10 ～ 29
2014	6	16 ～ 17	移動式クレーンをプレハブの脇に寄せ、プレハブを吊り上げ、後方旋回させ、トラックの荷台に載せようとしたところ、移動式クレーンが転倒し、移動式クレーンを運転していた被災者がトラックとの間に挟まれた。尚、移動式クレーンの右側アウトリガーは張り出されていなかった。	40301	2	10 ～ 29
2014	6	15 ～ 16	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	30209	1	1～ 9
2014	6	15 ～ 16	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	30209	1	1～ 9
2014	6	15 ～ 16	木材を車載型グラップルに積み込む際、グラップルの支柱上部に設けられた操作席に向かおうと、階段状のステップの1段目に足をかけようとしたところ、被災者が想定した位置にステップが無かったため踏み外し、ステップの角にひざを打ち付け、筋断裂の負傷を負い、その負傷が引き金となり、約1ヶ月後に肺塞栓症を発症し、死亡した。	10409	3	30 ～ 49
2014	3	13 ～ 14	被災者は、橋脚上に構築された吊足場を解体するため、積載形トラッククレーンから吊り下げられたバケットを橋脚上に載せ、バケット内に足場の部材等を積み込んでいた。トラッククレーンを無線操作し、バケットが橋脚から離れたところ、バケットが揺れ、トラッククレーンが横転。トラッククレーンを横転していた被災者が死亡した。	30105	1	50 ～ 99
2014	3	14 ～ 15	住宅用建材（外構用の化粧コンクリートブロック）の配送を、3t積みトラッククレーンで行っていた。現場にて、荷下ろしのため玉掛けワイヤーを積荷に掛けていたところ、大雨のため足元が滑り、荷台（高さ約70cm）から転落した。	40301	1	30 ～ 49
2014	2	9 ～ 10	護岸工事にて、土手に擁壁を構築するため、コンクリート打設作業を行っていた。作業は、クレーン仕様付車両系建設機械を使用し、コンクリート打設用のホッパーを吊り上げて起伏および旋回し、打設位置にホッパーを移動し打設していた。約10メートルの打設が終了し、次のコンクリート打設のため旋回していたところ車両が転倒し、運転者と車両が川に転落した。	30107	1	50 ～ 99
2014	2	9	資材の荷卸作業中、トラックの荷台の奥から後部荷卸口までの積荷の引き寄せに使用するためトラックの後方に後ろ向きに停車させていた積載形トラッククレーンを、引き寄せが終了したため前進させようとしたところ、運転者が運	30302	7	10 ～

	10	転操作を誤り後進させてしまったため、トラックと当該クレーンとの間にいた被災者が双方の荷台後部に挟まれた。			29
2014	1 13 ~ 14	脱臭用活性炭容器（7.9トン）の設置作業を移動式クレーンを用いて行っていたところ、単管パイプ上で位置調整の作業を行っていた被災者側に、吊っていた当該容器が振れ、高さ約3.5m下に墜落した。	30302	1	1~ 9
2015	2 10 ~ 11	町道の待避所を建設する道路改良工事において、移動式クレーン（16t吊りラフテレーンクレーン）を用いて、L型擁壁（PC製、重量3.6t）を吊り上げて旋回した後、移動式クレーンごと道路下（谷側）に転落し、運転席が車両の下敷きとなり、移動式クレーンを運転していた被災者が死亡した。	30106	1	10 ~ 29
2015	3 9 ~ 10	移動式クレーンの運転者であった被災者が、何らかの理由で移動式クレーンの窓から身を乗り出していたときに移動式クレーンのジブが上昇し、頭部と左腕を挟まれ、死亡した。被災者が窓から身を乗り出した理由は不明。災害発生時、被災者は移動式クレーンを運転して現場に到着した直後であり、作業開始前であった。アウトリガーを張り出す前であり、ジブを動かす必要もないことから、ジブを動かした理由も不明である。	30110	7	1~ 9
2015	9 14 ~ 15	被災者は、クレーン機能付きドラグ・ショベル（つり上げ荷重2.9t、クレーンモードへの切り替え状況は不明）を用いて、大型土嚢（0.45m ³ ）を移設する作業中、2つの大型土嚢を吊り上げ、左に旋回した際に、ドラグショベルがバランスを崩し河川敷内に転落し、転落時にオペレーターをしていた被災者が運転席外へ投げ出され、ドラグショベルの下敷きになり死亡したものの。	30107	1	10 ~ 29
2015	2 10 ~ 11	雑木林で伐倒された玉切材（原木丸太）を、事業主が操作する小型移動式クレーン（通称ユニック車）の荷台へ積み込む作業中、被災者が当該玉切材から離れようと一歩後ろに下がったとき、斜面に足を取られ約1.7m下に転落した。その直後、吊り荷である玉切材の隣にあった別の玉切材が斜面を転がり出し、被災者の胸部に乗り上げた。当日15時16分胸部重症外傷により搬送先の病院にて死亡。	30309	4	1~ 9
2015	6 11 ~ 12	回転炉の移設工事において、排気ダクトの解体作業を行っていた際、ダクトを移動式クレーン（つり上げ荷重50トン）で玉掛けし、保持した状態で、移動はしごに労働者Aが上り、ガス溶断により、壁面からダクトを固定していたステーの切り離しを行ったところ、ダクト中間部辺りの接合面（フランジ）のボルトが破断し、ダクトが中折れ、落下し、労働者A、Bに激突した。（A：重傷、B：脳挫傷により約31時間後に死亡）	30302	4	1~ 9
2015	1 18 ~ 19	被災者は、移動式クレーン等を使用して、本船に鉄スクラップを積込む作業のフォアマン。当日の積み込み作業を終え後片付けを行っていた際、被災者は清掃時にでたスクラップを移動式クレーンを使用して船内に積み込もうとしていた事に気付かず、トラック用マーカを当該移動式クレーンに積み込もうと近づいた際、回転していた上部旋回体のカウンターウェイトとクレーン車体の間に頭部を挟まれ死亡したものの。	50202	7	1~ 9
2015	5 10 ~ 11	被災者らは、造園工事において、土地造成に伴う石積み作業を行っていた。被災者は、積載型トラッククレーンを用いて、鉄板（重さ約120kg）2枚を当該トラッククレーンの荷台に積み、アウトリガーを格納していたところ、当該トラッククレーンが後退し、隣接して駐車していたブル・ドーザーの排土板と当該トラッククレーンの間にはさまれた。	30109	6	1~ 9
2015	10 13 ~ 14	型枠組立工場兼資材置場のトラック車庫前において、型枠資材を積載した車両積載型トラッククレーン（最大積載量6,800kg、つり上げ荷重2.9t）の運転席側のドアと座席との間に胸部を挟まれている状態の被災者が発見されたもの。当該ドアはトラッククレーン右前方に置かれた資材に接触し、ドアの外側を資材に押される形となっていた。なお、死体検案書では死亡推定時刻は13時~15時とされている。	30209	7	10 ~ 29
2015	11 13 ~ 14	大規模修繕工事現場の東側にあるこう配5.1°の道路上において、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）の運転手である被災者が、同現場にて使用された足場材の積載を終えた後、トラッククレーンの脇にてアウトリガーの収納の操作を行っていたところ、アウトリガーが地面から離れた途端に同トラッククレーンが逸走し、アウトリガーと同現場の足場の建地との間に挟まれて被災したものの。	40301	7	10 ~ 29

2015	7	9 ～ 10	寺の敷地内において、庭に設置した庭石（寸法：90×70、厚さ17cm、重量：約130kg）の位置を変更するため、つり上げ荷重0.995tの小型移動式クレーン（通称：カニクレーン）を使用して、庭石を吊り上げたところ横転し、ジブの先端が作業の様子を見ていた被災者の頭・背部に激突した。小型移動式クレーンはアウトリガーを張り出しておらず、設置した場所も平坦な場所ではなかった。	30199	6	1～ 9
2015	4	13 ～ 14	資材置場に炉（約800kg）を降ろそうと、つり上げて旋回したところ、車両積載型トラッククレーンが傾き、横転した。当該クレーンを操作していた被災者は倒れてきたクレーンの下敷きとなり、病院に搬送されたが死亡した。 なお、アウトリガーは張り出されていなかった。	150102	6	1～ 9
2015	1	10 ～ 11	高速道路の路肩に照明灯を設置する工事。照明灯のコンクリ基礎部分を移動式クレーンの荷台から吊って路肩の穴に入れるべく旋回させていたところ、路肩側に当該クレーンが横転し、誘導者（一次下請の労働者）が移動式クレーンとガードレールとの間に挟まれたもの。荷の重量は1.84t、吊上荷重は2.93t、アウトリガーは道路側は出さず、路肩側は中間張出であった。被災労働者は8日後、搬送先の病院にて死亡したもの。	30301	6	10 ～ 29
2015	10	11 ～ 12	建設工事現場内において、パレットに積んだポリマーモルタル40袋（2段重ね合計800kg）を、2.63tトラッククレーンを用い荷卸し作業中、荷台上で荷を地切りしたところ、つり荷のパレットが当該クレーンの荷台前方側に接触したため、ブームを4.72m（2段階目）に伸ばし、当該クレーン荷台の横に下ろそうと旋回した際、当該クレーンが横転し、当該クレーン横で操作をしていた被災者が下敷きになった。	30107	2	10 ～ 29
2015	5	8 ～ 9	木造住宅新築工事現場において、梁の組立作業中、高さ約4メートルの梁上で移動式クレーンによりつり上げられた梁の玉外し作業をしていたところ、玉外し作業が終わる前にフックが巻上げられたため、その反動でバランスをくずして、梁上から墜落した。即日病院に搬送され、意識不明の状態が続いていたが、平成27年12月16日に死亡した。	30202	1	1～ 9
2015	9	14 ～ 15	ドラグショベルを移動式クレーンモード（つり上げ荷重2.9トン）で使用し、排水路上から排水路内へ鉄板（6m×1.5m、厚み2.2cm、1.6トン）を下ろす作業において、排水路の法肩（法面の角度約20度）上に設置した移動式クレーンで鉄板をつり上げて左に旋回した際に、地盤が緩んで移動式クレーンが左に傾き、排水路内にいた被災者の方向に荷が振れ、被災者が鉄板と砂防ダムとの間に挟まれて死亡したもの。	30107	6	30 ～ 49
2015	1	23 ～ 24	作業終了後、海底ブロック据付工事のため着岸させていた台船内に設けた寄宿舍から、船長と被災者の2名で19時頃に一時下船し、飲酒を伴う夕食を摂った後、23時頃再度上船し寄宿舍へ戻ったが、被災者が翌朝6時を過ぎても姿を見せず行方不明となっていることが判明した。翌月20日、約18km離れた海岸で遺体が発見された。台船付近の海上に被災者のサンダルが浮いていたこと等から海中へ転落したものと推定される。	30111	10	10 ～ 29
2015	5	10 ～ 11	前日に引き抜かれ、公道の脇に横置きされたコンクリート製電柱（長さ14m、外径30cm、重量約1t）を指定された場所へ運搬するため、労働者2人で、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）の荷台へ積込む作業を行っていたところ、使用していた玉掛用ワイヤーロープが当該クレーンのフックから外れて落下し、直下にいた被災者が下敷きとなった。同僚は、当該クレーンを運転していたが、負傷はなかった。	40301	4	30 ～ 49
2015	6	11 ～ 12	金属リサイクル業者の敷地内において、金属買取業者の被災労働者がトラック納品のため入場、Y社の労働者2名が2機の重機を使用し荷降ろしを開始、作業を終了しようとしたところ、トラックの荷台の上に被災労働者が倒れているのが発見されたもの。当該作業の際、被災労働者が荷台に立ち入るのを現認したものはいない。なお被災労働者の労働者性については現在調査中である。	80109	6	10 ～ 29
2015	8	10 ～ 11	バイパス上において、道路照明ポール（長さ9.5m、重さ170kg）を撤去するため、トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）で吊り、端部（アンカー部）を地上に着地させた後、先端部を下ろそうとした際に、ポール向きを調整しようとしたところ、当該ポールが被災者側に動き、ポールとトラッククレーン荷台のあおりの間に胸部を挟まれたもの。心肺停止状態で病院に搬送されたが病院で死亡（12：26）が確認された。	30301	6	1～ 9

2015	7	13 ～ 14	工場敷地内において、被災者は、車両積載形トラッククレーンの修理作業のため、助手席側前輪付近の車体底部に潜り込み、取付けられたエンジンスターターの不具合を確認していた際に、同僚にエンジンキーを回すよう指示したところ、トラックが後進し、トラックの前輪に轢かれたもの。	11701	7	1～ 9
2015	11	12 ～ 13	被災者は、木造2階建住宅新築工事のため、車両積載形トラッククレーンを使用し、結束した木製土台41本（約700kg）を2本のスリングロープで玉掛けし吊り上げブームを旋回中、クレーンが転倒し、クレーンのそばで操作していた被災者がクレーンと地面に積まれた足場材にはさまれた。ブーム角度50度、作業半径6m、アウトリガーは最小張り出しで使用していた。（調査確認中）	30202	2	10 ～ 29
2016	12	8 ～ 9	きび輸送用移動式クレーン（つり上げ荷重3t未満、積載重量8.2t）を、死亡労働者が運転中（県道を走行）、県道下約8メートルに転落した。	40301	17	1～ 9
2016	11	8 ～ 9	車両積載型トラッククレーン（ジブが伸縮する型式）の荷台から、建設機械を当該クレーンを用いて荷台の側方に降ろしている際に転倒し、クレーンの運転者が下敷きになった。	30199	6	1～ 9
2016	11	9 ～ 10	移動式クレーンで鉄骨をつり上げたところ、つり上げた鉄骨が積み重ねていた隣の鉄骨に接触し、積み重ねられていた鉄骨の上にはさまれた被災者とともに落下した。被災者は鉄骨と鉄骨との間にはさまれ、死亡した。	11209	1	1～ 9
2016	11	11 ～ 12	急斜面の維持管理工事において、作業員が斜面上で伐木した樹木を移動式クレーン（つり上げ荷重35t）の補巻きワイヤーロープのフックに玉掛けして地上に降ろす作業に当たって、同クレーンの運転手に合図を送るため主巻きワイヤーロープのフックに玉掛けした搬器に搭乗していた被災者が高さ約13mから搬器と共に落下して死亡した。	30201	1	30 ～ 49
2016	9	13 ～ 14	被災者は、浮きクレーンのブームを定位置に置くため、同僚と船上でフックを横置きする作業を行っていた。当日使用していない補巻ワイヤー（補巻フック用ワイヤー）は、ブームに沿ってクレーン上部旋回体下部の取付金具に掛けて格納していたが、浮きクレーンのブームを下げた際、補巻ワイヤーが緊張し、取付金具が破断。外れた補巻ワイヤーが約30メートル先のフック付近にいた被災者に激突した。	30111	6	10 ～ 29
2016	9	15 ～ 16	港内にて、長さ8.5メートル幅43センチメートルの鋼製矢板を18枚束ねた荷（約9トン）をクローラクレーンで吊り上げ、クレーンの前方左方向に約45度回転させて防波堤脇の荷置場へ仮置きしていたところ、荷の受け取りを行っていた労働者のうち1名の胸部が吊り荷とコンクリート防波堤との間に挟まれ、心破裂し、死亡した。	30111	6	30 ～ 49
2016	9	16 ～ 17	災害復旧工事の現場において敷鉄板の搬出作業中、ドラグショベルで吊り上げた敷鉄板をダンプ荷台上で荷受けしていた被災者が、敷鉄板とダンプのあおりに挟まれ被災した。災害発生後手術を行い、一命を取り留め容体は安定していたが、発生から41日後に死亡した。	30107	6	30 ～ 49
2016	8	8 ～ 9	林道上で生コン車からコンクリートバケット内に生コンを受け入れた後、クレーン仕様のドラグ・ショベル（つり上げ荷重0.9t）のフック部分に玉掛けワイヤーロープを掛けた状態でコンクリートバケット（総重量0.49～0.51トン）をつり上げ、林道谷側に向けて旋回を行ったところドラグ・ショベルが谷側に傾き、林道上から4.5m下の床面にドラグ・ショベルが転落し、運転手（被災者）が投げ出されて死亡した。	30106	1	1～ 9
2016	5	16 ～ 17	当該事業場工場内に停車している最大積載量3,000kgのトラッククレーンの側に仰向けで倒れていた被災者を工場内にいた同僚が発見した。	150102	1	10 ～ 29
2016	5	14 ～ 15	水門の耐震補強工事において、水門側部の戸当りの撤去作業中、切断した戸当りの一部（約1.7tのコンクリート塊）にアンカーボルトを打ち込み、クレーンを用いて吊り上げ、旋回しようとした際に、アンカーボルトが抜け、コンクリート塊が足場を直撃し、足場頂部から約16m下に落下、落下したコンクリート塊により、足場作業床が外れ	30107	1	10 ～ 29

			開口部となった箇所から被災者1名が約1.2m下に墜落し死亡、他1名が足を打撲した。			
2016	4	8 ～ 9	傾斜している工事用道路（上り坂）において、クレーン仕様のドラグ・ショベルで吊っていたセメント袋を、目的地に下ろすため右旋回したところ、後方に転倒し、吊り荷が被災者に激突した。	30108	6	30 ～ 49
2017	12	8 ～ 9	被災者が、最大つり上げ荷重2.33tの車両積載形トラッククレーンを操作し、別の2tトラックの荷台から重さ約0.9tのフレコンバックをつり上げ、地面へ降ろしていたところ、当該クレーンが2tトラック側へ転倒した。被災者は、当該クレーンの車体（運転席）と2tトラック荷台のあたりとの間に胸部をはさまれた。	30199	7	1～ 9
2017	12	4 ～ 5	大型トラックを運転し、片側一車線の国道を走行していた被災者に、ブームを固定しないまま対向車線を走行してきた積載型トラッククレーンのブームが激突した。	40301	17	30 ～ 49
2017	11	8 ～ 9	移動式クレーン（つり上げ荷重2.5t）を用いて、鉄骨柱材（約2.5t）を吊り上げる作業を行っていた際に発生した災害。吊り上げた鉄骨柱材が別の鉄骨柱材（以下「当該柱」という。）の下に敷いていたH型鋼と接触していたため、H型鋼がバランスを崩して倒れた。これにより、当該柱がスライドし、付近で作業していた被災者が当該柱と横に置かれていた鉄骨柱材の間に挟まれた。	30201	5	10 ～ 29
2017	9	8 ～ 9	2.9トン小型移動式クレーンを使用し、翌日以降に使用する資材（鉄筋）を降ろす際の災害。被災者は、左側アウトリガーを張り出して下降接地させたところ、前方に約8度下降傾斜する地形であったため車両が流れ出し、アウトリガーボックス前方に位置していた被災者がなぎ倒され、左後輪に轢かれた（単独作業のため目撃者なし）。	30201	7	1～ 9
2017	9	14 ～ 15	長さ17メートル、奥行き1.4メートル、高さ1メートル程度の鉄製配管（重量6.7トン）を、クレーンによる移動作業中、当該配管を高さ80センチメートルにある木製の台座に下ろすために台座の上方20センチメートルまで下ろしたところ、クレーンにより吊っていた場所を中心として配管が垂直方向に回転したため、回転する配管の突出部分に労働者1名が巻き込まれ、配管と地面に当該労働者がはさまり、死亡した。	30309	6	1～ 9
2017	7	8 ～ 9	出張先の霊園において、車載型トラッククレーンで小型クローラークレーンをつり上げてトラックの荷台へ積み込んでいた際に、トラックの車体とクレーンとの接合部分が損傷し、ブームが倒れ、監視業務を行っていた被災者の頭部にブームが激突した。	10909	6	10 ～ 29
2017	7	16 ～ 17	足場の材料を積載型トラッククレーンの荷台に当該クレーン（つり上げ能力3t未満）を用いて積む作業において、玉掛者（被災者と別人）が単管パイプ（長さ1m）約50本を番線で結束したものを2束をスリング2本で玉掛けし、被災者がリモコン操作で吊り上げて旋回させながら荷台の方向へ歩行していたところ、吊荷の単管パイプが高さ約3mの位置から落下して被災者に当たった。	30201	4	1～ 9
2017	7	12 ～ 13	側溝排水管敷設工事現場において、U字型側溝を運搬するため、積載形トラッククレーンを使用して当該側溝（長さ約2m、重さ約350キログラム）を2個、玉掛けしジブを起こしたところ、トラックがバランスを崩して転倒し、左側のアウトリガーと荷台の間にはさまれた。	30199	7	1～ 9
2017	5	16 ～ 17	積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93トン）で木材が入ったコンテナ（重量2.2トン）をつり上げ、移動させていたところ、当該クレーンが倒れ、操作していた被災者が下敷きになり、死亡した。	150102	5	1～ 9
2017	5	10 ～ 11	下水道新設工事において、クレーン機能を備えたドラグショベルを用いてクレーン作業で下水管（HPφ800重さ約1.2t）をつり上げて、事前に掘削した底面（深さ約1.9m）に設置する作業中、つり上げた下水管の一端が掘削側面に接触し動かなくなったため、被災者が掘削底面に下り、下水管に近づき素手で接触部分を外したところ、つり上げられていた下水管が振れ被災者の胸部に激突した。	30110	6	10 ～ 29
		8	鉄骨造建物の新築工事現場で行っていた鉄骨建方作業において、高さ9.4メートルの鉄骨上で、相番者1名と鉄骨			1～

2017	5	9	梁の取付作業をしていた被災者に、移動式クレーンで吊られた状態の鉄骨梁（重量4.2トン）が激突し、被災者が頸髄損傷で死亡した。	30209	6	9
2017	5	8 9	被災者が、建設現場に仮設足場材の納品に赴き、移動式クレーンの荷台上で、移動式クレーンの操作を行いながら、荷下ろし作業を行っていた。移動式クレーン操作中に、吊り荷に背を向ける形で現場労働者と話しをしていたところ、荷振れを起こした吊り荷が被災者の背中に当たり、被災者が地面に墜落した。被災者はその後、入院中に病院で容態が急変し2ヶ月後に死亡した。	40301	1	10 ～ 29
2017	5	16 17	現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	30309	1	1～ 9
2017	5	16 17	現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	30309	1	1～ 9
2017	5	16 17	足場仮設材の引取りに、移動式クレーン（トラッククレーン）で現場に入場した被災者が、トラッククレーンに荷の積み込みを終えたあと、積み込まれた荷の上（地上より高さ2m65cm）で作業を行っていたところ、荷の上から地上面へ墜落した。	40302	1	10 ～ 29
2017	4	8 9	被災者は、最大積載量10トンの車両積載形トラッククレーンに住宅用資材を積載し、新築住宅工事現場に向かったが、現場の作業場所が狭隘であったため、近くにある駐車場において、同僚1名と最大積載量3.75トンの車両積載形トラッククレーンに当該資材を積み替える作業を行っていた。作業を開始してまもなく、近くを通った女性がうつ伏せで倒れていた被災者を発見し、救急搬送されたが、翌日死亡した。	40301	1	10 ～ 29
2017	4	14 15	道路を走行中の廃油運搬車が一般車両を回避するため減速した際、廃油運搬車の後方を走行していた積載形トラッククレーンが当該廃油運搬車に追突。トラッククレーンを運転していた被災者が死亡した。	80409	17	1～ 9
2017	4	8 9	被災者は工場内岸壁付近で移動式クレーン（60t）を後退させたところ、左後輪が岸壁外側へ脱輪し、被災者が乗車した状態で下方の海に転落した。被災者は病院に搬送され、死亡が確認された。岸壁部分はコンクリート構造の段差があり、被災者が脱輪時に付近の作業者に「コンクリートを見間違えた」と申し立てていることから、上段と下段のコンクリート面を同じ平面と勘違いし脱輪したものと推測される。	30302	1	30 ～ 49
2017	2	14 15	被災者と事業主の2名が私有地の山林でつり上げ荷重2.93トンの移動式クレーンを用いて、丸太をかにばさみ状の玉掛け用具を用いて一点吊りにし仮置き場に移動させる際、荷が片側に傾いていたため、仮置きしていた丸太に荷の先端があたり、反動で吊り具のはさみの一方がはずれ、荷が先端を軸として回転し、荷の近くにいた被災者の背中に激突したあと、頭部にも当たり翌日脳挫傷により死亡した。	10401	6	1～ 9
2017	2	6 7	被災者は鉄屑をトラックで工場内の鉄屑下ろし場に搬入した。作業員が、ドラグショベルにリフティングマグネットを装着した移動式クレーンを使用してトラックの荷台から鉄屑を下ろす作業を行っていたが、近くで見ていたはずの被災者の姿が見えなくなったため、荷台の中を確認したところ、荷台の後方で倒れている被災者を発見した。なお荷台の中には竹ぼうきが落ちていた。	150102	6	10 ～ 29
2017	1	8 9	クローラクレーン（吊り上げ荷重200t）の起伏ドラム（ダブル）に巻かれているワイヤーロープ（φ22mm）が乱巻きとなり、一方のワイヤーロープは巻き取られずにカウンターウエイトまではみ出していたことから、被災者と同僚作業員が乱巻き等を直していたところ、突然ジブが降下し、撓んでいたワイヤーロープが瞬時に張ったため、起伏ドラム方向にワイヤーロープが弾け、同僚作業員の顔面をかすめ、被災者の頭部を直撃した。	30111	6	30 ～ 49
		8	杉の伐採、搬出現場において、造材が終了した丸太を搬出するため、トラックの運転手が最大積載量7.2tのト			10

2017	1	～ 9	トラックを運転し、現場内の回転場で方向転換を行った後、後進で丸太の積み込み箇所まで約50m移動させ停車したところ、トラックの車体の下に倒れている被災者を発見した。被災者は、集材土場において、先山から機械集材装置で降ろした材の荷外し作業を担当していた。	60201	7	～ 29
2018	11	8 ～ 9	被災者は積載型トラッククレーン（ユニック車）を運転して法面養生用の鉄板を現場に搬入する業務に従事していたが、現場に同車両を駐車した際に、同車両が後方へ逸走し始めたため、これを被災者が止めようと車両の助手席ドア部分を押さえていたところ、押さえきれずに車両と共に車両停車位置の側方の路肩下部へ転倒・転落し、車両の下敷きとなったもの。	30209	7	10 ～ 29
2018	11	8 ～ 9	被災者は、移動式クレーンのジブの先に取り付けられたカゴと呼ばれるアルミ製の搭乗設備に乗り、リモコンで操作しながら、高さ約7m、胸高直径40cmのケヤキの木の剪定作業を行っていたが、何らかの理由でカゴから地上に墜落した。災害発生時、地上からカゴの作業床までの高さは6.4mで、被災者は安全帯、ヘルメットを着用していなかった。	60101	1	1～ 9
2018	11	14 ～ 15	クローラクレーン（つり上げ荷重120トン、トラスジブ2段）のジブ解体作業にて、2段目のジブを1段目ジブ下部に格納、固定し、下向きになったジブ固定用ワイヤーロープのストラットを敷鉄板の上に置き、ジブ下部にてジブ先端に取り付けたカメラの配線、その他のケーブルの取り外し作業を行っていたところ、敷鉄板上ストラットが前方に滑り、そのはずみでジブがコンクリート床に落下しジブ下部で作業していた4名が被災した。	30201	4	10 ～ 29
2018	11	16 ～ 17	工場内施設協会駐車場において、駐車場に並列して駐車してあった高所作業車の助手席側前方アウトリガー付近とトラッククレーンの運転席側の側面との間に被災者が胸部を挟まれ意識を失っているところを仕事が終わる駐車場に立ち寄った作業員が発見した。	30302	7	30 ～ 49
2018	11	8 ～ 9	個人宅において植木の移植作業中、槇の木を移動式クレーン（2.9t）で吊り上げたところ、枝等がジブに接触し持ち上げることができなくなったため、吊っていた木を一旦掘った穴（吊り上げた木の根を掘った穴）に戻したところ、被災者が穴に落ちていることに気づかず、胸を圧迫され死亡した。	30199	7	1～ 9
2018	10	8 ～ 9	汚染土壌の搬出作業において、4トントラックの荷台の横にいたトラック運転手が、旋回してきたクレーン機能付きドラグ・ショベルのカウンターウエイトと同トラックの荷台の間に胸部を挟まれ、死亡した。	30309	7	10 ～ 29
2018	10	18 ～ 19	鉄・非鉄スクラップ加工処理場において、トラックの荷台上のスクラップを重機に取り付けたリフティングマグネットを使ってつり上げ作業をしていたところ、荷台内にいた合図者兼トラック運転者である被災者に、リフティングマグネットが激突した。	11709	6	1～ 9
2018	10	14 ～ 15	被災者は、車両積載型クレーン（つり上げ荷重2.93t）を運転して、同クレーンの荷台に積んだポプラの玉切り木（重量2.44t、長さ350cm、直径は最も太い箇所101cm）をつり上げ、続いて地面に下ろそうとしたところ、同クレーンが転倒して斜面から転落した。被災者は別の労働者によって斜面の下で同クレーンの横に倒れているのを発見され病院に搬送されたが、胸部外傷等により死亡が確認された。	30107	1	10 ～ 29
2018	9	16 ～ 17	岸壁のゴム製緩衝材の補修工事において、移動式クレーン機能付きドラグショベル（吊り上げ荷重0.9t。バケツは外している。）のフックに搭乗設備を吊り、被災者がその上に乗って海面から2m程の箇所で作業を行っていたところ、フックから搭乗設備の吊環が外れ、被災者は搭乗設備ごと海に落下した。被災者は吊環に安全帯を掛けていたため、水中に引き込まれて死亡した。なお、移動式クレーンモードへの切替えなし。	30309	10	1～ 9
2018	8	10 ～ 11	被災者は、配送作業員として所属事業場所有のリース機械である高所作業車をつり上げ荷重2.6tの小型移動式クレーンの荷台に載せて、災害発生場所の建設現場に運搬した後、当該現場横の駐車場において、小型移動式クレーンを用いて荷台に載せた高所作業車をつり上げ地上に下ろそうとしたところ、当該小型移動式クレーンが横転し、つり上げていた高所作業車の下敷きとなったものである。	80409	6	1～ 9

2018	7	16 ～ 17	被災者が、親事業場が移動式クレーンの試運転を行っている箇所に隣接する場所で屋外通路をペンキで塗り分ける作業に従事していたところ、荷重試験を行っていた移動式クレーンのジブが旋回中に折損して倒れ、被災者と下請け事業場の事業主が倒れてきたジブの下敷きになる等して死亡した。また、周辺で作業をしていた作業員が飛来してきた部品に当たる等して負傷した。	11301	5	10 ～ 29
2018	7	12 ～ 13	被災者が、クレーン機能付きドラグ・ショベルを運転していた際、当該ドラグ・ショベルが転落した。	30106	1	30 ～ 49
2018	6	10 ～ 11	クレーン機能付ドラグ・ショベル（定格荷重2.9t、クレーンモードで使用）で、ロードマット（格子状の金属製敷板：重量約600kg）を吊った状態で車両通行路（上り勾配：約20度）を走行していたところ、履帯（クローラ）が滑ったため、運転手は吊荷を下し、バケットを地面に着いて滑りを止めようとしたが止められず、法面にいた被災者を巻き込み、路肩から約17m下に転落した。	30199	6	10 ～ 29
2018	6	2 ～ 3	現場での作業を終了し会社に戻るため、積載型トラッククレーンに2名で乗車して国道を走行中、緩い右カーブの箇所で直進したことから、歩道の端に設置していたガードフェンスに衝突、助手席の労働者が搬送先の病院で死亡し、運転していた労働者が負傷した。	30301	17	10 ～ 29
2018	5	10 ～ 11	ユニック（移動式クレーン）で現場に資材を搬入してきた被災者が資材（約1.4トン）をユニックのクレーンで吊っていたところ、ユニックが傾き、その車体と現場の仮囲いのポールとの間にはさまれたもの。	40301	6	50 ～ 99
2018	4	8 ～ 9	被災者が一人で坂になっている道路に停めていたユニック車のクレーンのブームを伸ばしていたところエンストしたため、エンジンをかけた。その後しばらく経っても被災者の姿が見えなかったため、他の労働者が土手の下を見たところ、約10メートル下で俯せで倒れていた。道路から土手へ転落し、頭部等を強打したと思われる、救急車を呼び病院に搬送後、死亡した。	80209	1	10 ～ 29
2018	4	10 ～ 11	移動式クレーンの整備で、ブーム上のグリス穴にグリスを指すために、車体に設けられた地上から高さ2.7mの位置にあるステップを登っていたところ、足を滑らせ、墜落し、頭部を負傷した。救急搬送され、治療を受けたが、死亡した。	30309	1	10 ～ 29
2018	3	14 ～ 15	トラックの荷の積み込み作業を終えて運転席に戻ろうとしたときに、別会社の労働者が運転するトラッククレーンにはねられて死亡したものである。	40301	6	10 ～ 29
2018	3	8 ～ 9	一般国道道路改良工事において、重さ1.8トンのL字型擁壁を現場から搬出するため、現場代理人である被災者がつり上げ荷重2.93トンの車両積載形トラッククレーンを操作し同擁壁をつり上げトラックの荷台側へ旋回したところ、当該クレーンが転倒し、当該クレーンとトラックの間に被災者が挟まれ死亡した。	30106	7	1～ 9
2018	2	8 ～ 9	休耕している水田内に工事用仮設作業道として設置していた敷鉄板の搬出作業中、クレーン機能付きドラグショベルで吊った敷鉄板がダンプの荷台上で引っかかり動かない状態となった。クレーン機能付きドラグショベルを運転していた被災者が運転席から降り、自らダンプの後アオリを下したところ、敷鉄板が振り子状に動き被災者の胸に激突し、続けて被災者後方の重機に背中から激突したものである。	30199	6	1～ 9
2018	2	10 ～ 11	クレーン機能付きドラグショベル（以下重機と呼ぶ）を使用して、トラックの荷台に積まれたH鋼（長さ350センチメートル、重さ280キログラム）を資材置場に卸す作業中、H鋼を保持していた玉掛け作業者である被災者が、H鋼が傾いたため、あわててH鋼に駆け寄った際、転倒して重機前方にうつぶせになった直後、つり荷がクランプから外れ、重機の運転席に落下して操作レバーを動かし、重機が前進し被災者をひいたもの。	30110	7	1～ 9
		8	被災者は移動式クレーン（12t）を運転して市内の現場に向かう途中、林道脇に約5m滑落し、外傷性圧迫死によ			1～

2018	2	9	り死亡したもの。	30301	17	9
2018	1	14 ～ 15	利用者宅へ向かう途中、被災者が運転する二輪車が道路左側を走行中、後方から走行してきた大型車（移動式クレーン）と何らかの原因で接触、転倒し轢過されたもの。	130201	17	30 ～ 49
2018	1	12 ～ 13	RC造新築工事において、構台上的移動式クレーンにより、構台上的ヤードから地下階へ仮設資材の荷下ろし作業中、構台端部から地下階の状況を確認していた玉掛者兼合図者である被災者が、同じく構台上で作業をしていた別の移動式クレーンが旋回した際に、当該移動式クレーンの上部旋回体と付近の構台手すりとの間にはさまれたもの。	30201	7	50 ～ 99
2018	1	14 ～ 15	クレーン機能付きドラグ・ショベルを別の現場に移動するために、取替用バケットを吊りながら、所定の場所まで敷鉄板で養生された農道（傾斜8度の下り坂）を走行中、当該ドラグ・ショベルがスリップして逸走し、田んぼに転落しかけたため、運転席から飛び降りたところに、当該ドラグ・ショベルが転落し、下敷きとなった。	30309	1	10 ～ 29
2019	12	6 ～ 8	つり上げ荷重80tの移動式クレーン（ラフテレーンクレーン）で、成型機（10.5t）を構台から吊り上げ、トラック荷台に乗せるために旋回したところ、移動式クレーンが横転した。横転した移動式クレーンのブームは、現場敷地内に駐車していた車両数台に直撃し、車内で待機していた被災者が死亡したほか、5名が負傷した。	30201	5	10 ～ 29
2019	12	18 ～ 20	二本のH鋼（3.6mと5.4m）をクレーンで連結させる作業を行っていた。H鋼は並列に二本置かれている状態で、その並列で置かれているH鋼の間で連結させた部分のボルトを締める作業を被災者と同作業者の二名で行っていた。連結作業終了後、チェーンブロックを巻き上げた際にフックがH鋼に当たり、H鋼が被災者側に倒れ、下敷きになり、死亡した。	30209	6	1～ 9
2019	12	10 ～ 12	会社の資材置場の敷地において、作業員（移動式クレーン運転士）がホイールクレーン（つり上げ荷重25t）を使用し、クレーン前方向右側にあった鉄製バケット（約100kg）をトラックに積み込むため当該バケットの位置までブームを伸ばした際、クレーン前方向右側に転倒し、ブーム先が当該バケット付近にいた被災者（玉掛者）に激突した。転倒時のブーム長さ約16.5m、傾斜角約27度、作業半径約13mであった。	30199	6	10 ～ 29
2019	11	10 ～ 12	ユニック車の車載の移動式クレーンを用いてグラウンドアンカー（橋の補強に使う鉄骨）を吊り上げ、移動させようとした際に、車体が傾き、荷台に積んでいた別のグラウンドアンカーが滑り落ち、被災者の背中に滑り落ちたグラウンドアンカーが激突し、事前の作業で置かれていたグラウンドアンカーとの間に挟まれた。	11209	4	1～ 9
2019	10	8 ～ 10	被災者は、積載型トラッククレーン（2.9t）のジブ先端に取り付けられた搭乗設備上で伐採された木の回収作業を行っていた。自らクレーンをリモコンで操作し、立木に挟まった木にベルトスリングを取り付けて当該クレーンのフックにかけて引っ張っていたところ、挟まった木が取れたことで張力が抜け、その反動で、墜落制止器具を着用していなかった被災者が搭乗設備から投げ出され、高さ約8.8m下に墜落した。	30309	1	100 ～ 299
2019	8	8 ～ 10	被災者は建設工事現場前の道路上で当該工事に係る交通誘導警備員として被災事業場の労働者Aと2名体制で交通誘導の業務に従事していた。被災当日、当該工事に係る荷の搬入のため、車両積載型トラッククレーン（最大積載荷重2トン）の誘導を当該車両の後方から行っていたところ、後退してくる当該車両の後輪に被災者が轢かれたもの。	170201	17	100 ～ 299
2019	7	10 ～ 12	工場において、トラック荷台に積まれた鉄材のスクラップをマグネットのアタッチメントを取り付けたドラグ・ショベルで荷降ろしする作業を行っていた。トラック荷台の床面付近をドラグ・ショベル先端のマグネットで複数回往復させたところで同僚がトラック内に被災者が倒れていることを発見した。マグネットがトラック荷台にいた被災者の頭部に激突したものと推定される。	40301	6	1～ 9
2019	7	10 ～ 12	工場内において、オペレーターが、移動式クレーン（リフティングマグネット装着）を運転して、被災者の乗っていたトレーラーの荷台のスクラップを持ち上げた。被災者が持っていた竹ぼうきも吸い付いてきたため、ドラグショベルを降り、トレーラー荷台を見に行ったところ、被災者が倒れていた。	40301	6	10 ～ 29

2019	6	6	工場内の原料受入れ棧橋において、クローラークレーン（バケット付き）を使用し、船から原料である石油コークスをホッパーに投入する作業をしていた。工場側から設備の点検をしながらホッパーのところまで来た別会社の労働者が作業中のクローラークレーンの下に倒れている被災者を発見した。発見後、病院へ搬送されたが死亡が確認された。	50202	7	30 ～ 49
2019	5	8 ～ 10	倉庫解体工事現場において、被災者一人で歩道の敷鉄板を積載型小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93t）を用いて当該クレーンの荷台に積み込み作業を行っていた。敷鉄板積み込み作業場所から「ドン」と音がしたので、廃材の仕分け作業を行っていた別の作業員が音のした方を振り向いたところ、被災者が敷鉄板1枚（縦1.53m、横3.05m、重量約800kg）の下敷きになっていたものである。	30209	4	10 ～ 29
2019	4	8 ～ 10	資材置き場において、杉の木を伐採する前処理として枝の剪定を、専用の搭乗設備を装着した移動式クレーン（定格荷重2.9トン）を使って行っていた。作業がひと段落し、地上に降りるため、被災者がリモコンを操作し下降していたときに、枝が被災者にあたり、被災者が搭乗設備から約10メートル下に墜落したものの。	30199	1	10 ～ 29
2019	4	8 ～ 10	高さ約2.4mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	30302	1	10 ～ 29
2019	4	8 ～ 10	高さ約2.4mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	30302	1	10 ～ 29
2019	3	12 ～ 14	被災者は、携帯電話基地局に使用されていた電柱（長さ15m、重量約2.2トン）を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重：2.93トン）に積み込む作業中、荷台前方の鳥居部の助手席側に電柱の先端を一旦載せ、鳥居部の運転席側に電柱先端部をずらすと荷台上でリモコンを操作し、ジブを伸ばして荷台後方に電柱を引いたところ、鳥居部から電柱の先端が落ち、過荷重でジブが折れ、電柱が落下して被災者に当たった。	40301	4	10 ～ 29
2019	3	12 ～ 14	電波塔を建設する工事において、塔の基礎となる立坑（深さ約6.3メートル、直径1.43メートル）を掘削中、内部の掘削した土砂を容器に入れて搬出するために移動式クレーン（つり上げ荷重2.37トン、カニクレーン）を用いて吊り上げていたところ、巻上用ワイヤロープが切断したため吊り荷とフックが落下して立坑の底部で作業をしていた被災者を直撃した。	30209	4	1～ 9
2019	2	10 ～ 12	被災者は砂防工事現場において車両積載型クレーンを使用し、工事用道路で使用した敷鉄板の搬出作業に従事。トラック荷台上約40cmの位置から鉄板を荷台へ降ろそうとしたところ、ジブ根本部分にある巻上用ドラムの位置がずれ、ドラムの歯車がピニオンから外れたためドラムが回転し、巻上用ワイヤロープが滑り出て荷が落下。落下した鉄板が荷台上にいた被災者に接触し、その反動で1.15m下の地面に墜落した。	30108	6	10 ～ 29
2019	2	8 ～ 10	被災者は朝から一人で被災現場で産業廃棄物を入れたコンテナ（総重量2.3t）を回収するため、車両積載型トラッククレーンで積み込み作業を行っていた。荷を吊り上げ、ジブを回転させた際、機体がバランスを崩し、操作していた被災者の方へ横転し下敷きになったもの。	150102	6	50 ～ 99
2019	2	10 ～ 12	被災者は、工事現場内に設置された外部足場13層目作業床で、足場から躯体側に身を乗り出して外壁にトタンを貼る作業を同僚2名と行っていた。一方、別業者の作業員が移動式クレーンにより床材8枚の躯体内への搬入作業を行っていた。その際、吊り荷である床材の1番上の1枚（鋼製、長さ約2m、幅約30cm、重さ約25kg）が被災者らの作業していた足場と躯体の間に落下し、作業中の被災者の顔に当たり死亡した。	30201	4	30 ～ 49
2020	11	10	被災者は、造成工事現場にコンクリート製間知石を積載形トラッククレーンで運搬し、工事現場に近接した道路に駐車した。工事現場の重機で荷卸しする前に、邪魔となる自車ジブを車体右側の操作レバーで前部へ旋回中、傾斜8度	10901	17	10 ～

		12	の坂道であったため無人の車体が後進し、車体と背後の擁壁の間にはさまれたもの。			29
2020	11	8 ～ 10	工事現場において、被災者が移動式クレーンを用いてユニック車を吊り上げて旋回したところ、移動式クレーンが傾き、転倒した。移動式クレーンは擁壁にもたれかかる形となったため、運転席は移動式クレーンの車体と擁壁に挟まれて押し潰され、運転席にいた被災者は死亡した。なお、アウトリガー脚部の接地箇所1か所が沈下しており、当該沈下により車体のバランスが崩れたものである。	30199	2	10 ～ 29
2020	10	8 ～ 10	ホイールクレーン（吊り上げ荷重25t）の補助フックが作業開始前に、動かなかったため、補修のためジブを下げている途中、補助フックを支えていたワイヤーが切れ、補助フック（約70キロ）が落下し、被災者の頭部にあたったもの。	11501	4	1～ 9
2020	9	14 ～ 16	被災者が橋の上に設置したつり上げ荷重2.93t移動式クレーンを操作し、橋の川下側高水敷にあるドラグ・ショベルを吊り上げようとしたところ、当該移動式クレーンが転倒して被災者に激突し、負傷した。救急搬送された医療機関で死亡が確認された。	30106	7	10 ～ 29
2020	9	10 ～ 12	つり上げ荷重2.33tの積載型トラッククレーンを操作し、荷台に積んだヒューム管（約600kg、60cm（外径）、長さ2.5m）の積み下ろしをしていたところ、移動式クレーンが倒れ、運転席ドア部と地面に挟まれた。	30209	6	1～ 9
2020	9	10 ～ 12	被災者が搭乗する移動式クレーンが、作業構台から7メートル下に墜落した。被災者は70トンクローラクレーンを使って、作業構台から、7メートル下の地下部分に、鉄筋等を下ろしていた。休憩中に当該クレーンがゆっくりと構台端部に動き出し、手すりをなぎ倒した後、そのまま被災者ごと墜落した。その後、搬送先の病院にて3日後に死亡した。	30201	1	10 ～ 29
2020	8	10 ～ 12	被災者の当日の作業内容は出張先の車両系建設機械のフロントガラスの交換作業である。被災者は出張先の敷地内にて作業を行っていたが、同敷地内では同社労働者が移動式クレーンを用いたダンプからの荷卸し作業が行われていた。午前頃、被災者は当該移動式クレーンの上部旋回体と停車中の車両積載型トラッククレーンとの間に腹部を挟まれた。	11702	7	50 ～ 99
2020	7	22 ～ 24	定格荷重2.9トンのクローラクレーンで、土砂を集積したフレコンバックを吊り上げようとしたところ、フレコンバックを置いていた単管の囲いにフレコンバックが引っかかったため、クレーンを運転していた被災者が前方を確認するため頭部を出した際、身体が旋回レバーに接触し、左旋回したことから近接した場所に設けていた昇降足場の建地とクレーンのキャビンの間に頸部が挟まれ被災した。	30103	7	10 ～ 29
2020	4	10 ～ 12	法面工事現場において、被災者がチェーンソーを使用し、トラック（最大積載量3.5t）の荷台上で処分する杉の伐倒木の玉切り作業を行うため、移動式クレーン（クレーン仕様のドラグ・ショベル、定格荷重2.9t）によりつり上げた伐倒木を当該荷台上に移動させたところ荷振れが生じ、被災者がそれを抑えようと伐倒木を抱え込んだ際にバランスを崩し、伐倒木とともに地面に墜落して下敷きとなった。	30108	1	10 ～ 29
2020	3	12 ～ 14	民間住宅新築工事現場において、車両積載形トラッククレーンを用いて型枠資材撤去作業中に、当該トラッククレーンの荷台でリモコン操作をしていた被災者が荷台から墜落した。	30201	1	10 ～ 29
2020	2	10 ～ 12	掘削用の防護壁の支柱として使用していたH型鋼（長さ：766cm、幅：30cm、重さ：約660kg）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルで吊り上げ、旋回していたところ、玉掛け用の吊りクランプから当該H型鋼が脱落し、付近で交通誘導をしていた被災者の背後に向かって倒れ、そのまま同者に激突した。	170201	6	1～ 9
2020	2	8 ～ 10	被災者は、資材置き場において他の作業員と2名でつり上げ荷重2.63トンの車両積載型トラッククレーンを操作して、木の枝の束（重量：約250～350kg）を荷下ろししていたところ、吊り荷が強風にあおられ（平均風速は調査中。）、トラッククレーンが転倒し車体と地面の間にはさまれ、外傷性窒息により死亡した。	30309	7	30 ～ 49

2020	2	6 ～ 8	被災者はユニック車にLPガスボンベを積んで工場に入場していたが、午前、当該ユニック車の足元で血を流して倒れているところを別の出入りの業者によって発見された。その後病院へ搬送されるも、急性硬膜下血腫により死亡した。	40301	1	1 ～ 9
2020	1	8 ～ 10	銀行研修所屋根・防水改修工事において、ホイールクレーンの補助ジブの組立作業を一人で行っていた被災者（オペ付きリースとして入場）が、同クレーン車体東側で頭部から出血した状態で倒れていたところを発見されたもの。被災者は災害発生後から意識不明の状態が続いたが、後日死亡した。	30209	1	10 ～ 29
2020	1	16 ～ 18	浮きクレーンのクレーン部解体作業中、クレーンのフレームに吊り下げ固定されているカウンターウェイト（28t）の固定用ボルトを溶断して外したところ、当該カウンターウェイトが落下し被災者2名に接触、うち1名が死亡したもの。	80409	4	10 ～ 29
2020	1	14 ～ 16	土止支保工部材（H鋼を連結したもの）の小バラシ作業をしていたところ、移動式クレーンにてつり上げ中であったプレートが同部材の下（地面が砂利に覆われていたため、隙間があった）に入り込んだことにより同部材が被災者側に倒れ、隣接の土止支保工部材との間に挟まれた。	30199	7	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_02.html